

2021/6/25

オマケの英語教室

(自分流儀で by my style) 書庫版



「相手がそうだと分かって呉れば何もジャストで最適格な言葉1語でそれを言わなくても良いのだ」

と分かると大変気が楽になりました。

無論通じなければ意味がありませんが、通じるのであれば色々な表現形式があってもいい筈。

譬え話で。

日本の格言を英語にして。

絵画的描写の説明風で

数字や表を使って。

等々の実験を色々やってみる楽しみも生まれました。

又イディオム(常套句)に囚われないで、それと同等の内容が伝わればその伝え方は

「そういう表現法もあるのか」

と相手にとっても却って新鮮で、話者の個性として面白がって貰えるかもしれない。

そう思うと更に気が大きくなり同時に楽しみの範囲も格段に拡がりました。

そうして何より主軸が外国人さん側から自分側に移った事で「自信を持つ」事が出来ました。

それで益々

「英語は覚えるものではなく創るもの」

という思いを強く致しました。

当レストランで起きた実際例を一つ申し上げますと、

兎に角当店では込み入った話での日本語が通じる人間は日本人の自分しか居りません。

例えばお役所からの電話だとかお客様への支払い方法の変更の説明だとか業者さんとの値引き交渉だとかの場合です。

そんな場合は自分が出て行くしかないののでいつの間にかそれが全業務に敷衍され、一時外国人従業員達が何でもかでも用件を自分の処に持ち込んで来る様になってしまいました。

「是では雑務に忙殺されてしまう。何とかせねば」と色々考えました。

正確に説明しようとする

「対外業務や事務折衝は自分がやる。金策も広告関係も自分がやる。しかし日常の細事迄全部自分にやれ言われては身が持たない。第一そんな事ばかりしていたら明日の種を蒔く為の考える時間が無くなってしまう。だから日常業務の細事迄持ち込むな。ちゃんと線引きをしろ」

という事になりますが、それを英訳するのも面倒だし英訳した処で分かりそうもない。

何かいい手はないかと考え、此処では譬え話を用いる事に致しました。

曰く

I'm not Superman, not(=nor) Spiderman, not (=nor) Batman. You are not my dependants.

Never give too many requests to me!! Do your own jobs!!

(俺はスーパーマンでもスパイダーマンでもバットマンでもない。お前達は俺の家族帯同者でもない。余計な頼み事はするな。自分の仕事をしろ)

上の文章では not ではなく nor が正解なのですが、そんな単語を使っても却って相手は分からなくなるので敢えて not を使い、

「何でも出来る訳ではない」事を伝える為に I'm not God というと色々支障があるので冗談めかして映画キャラを使い、

「俺にばかり頼るな」と言う事を伝える為に、彼らにお馴染みの奥さんや子供の在留カードの身分の欄に書かれている「帯同家族者」を意味する dependant を用いて「過度に俺に寄りかかるな」と言う自分の意図を伝えました。

Dependant は depend on(寄りかかる、依存する)の人称名詞形です。

この譬え話作戦は成功しそれ以降細事を丸投げしてくる件数は激減致しました。

無論ゼロにはなっておりませんが。